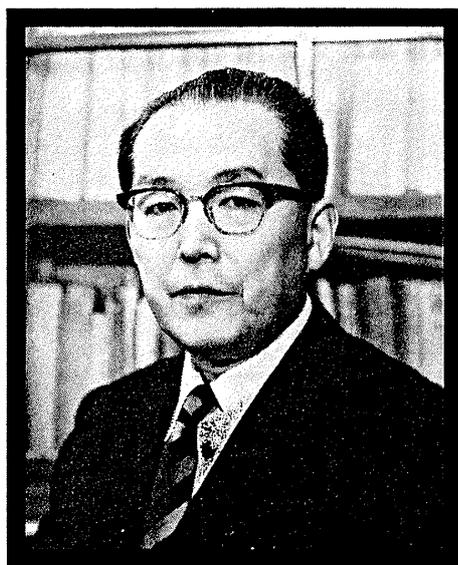


会 記

安松京三先生を偲びて



本会名誉会員安松京三先生には、昭和 58 年 1 月 25 日、福岡市の浜の町病院で逝去された。75 才のお誕生日を間近に控えられてのことであった。先生は長年にわたって本学会の編集幹事、評議員、会長などをつとめられ、文字通り本学会の功労者の 1 人であった。特に本学会の財政事情が苦しいときに機関誌「昆虫」の編集（21 巻～28 巻）に従事され、定期的な発行を行って会の再興発展に大きく貢献したことや、8 年間の会長在任中に国際的な外交手腕を発揮されてわが昆虫学界の評価を高められた功績は記憶に新しいところである。ここに先生の本学会に対するご功績を顕彰し、あわせて深甚なる謝意を表明する次第である。

先生のご経歴は下記年譜に明らかなように、昆虫学の研究発展、国際交流、子弟後輩の育成指導にまさしく一生を捧げられたのである。

先生の研究活動は、大まかにわけると戦前と戦後の 2 期に大別できよう。戦前は主として膜翅目の分類学・習性学的研究に従事され、この方面で日本の昆虫学界をリードされた。しかし先生のご研究の範囲は広がった。昆虫の生長にも造詣が深く、特にナナフシの相対生長について大著を発表しておられる。南洋群島（昭和 15 年）や中国北部の山西省（昭和 17 年）に学術調査に出かけられたのもこの期間である。

戦後における先生は、ルビーアカヤドリコバチの発見に続いて害虫の生物的防除の研究と天敵思想の普及につとめられた。これらの功績によって日本農学賞、朝日文化賞、ハリー・スコット・ミス記念賞などを受賞されている。先生のご研究を背景にして昭和 39 年に我が国唯一の生物的防除研究施設（天敵微生物学と天敵増殖学の 2 部門）が九州大学農学部に開設されたことは特記すべきことである。

この前後から、先生は日米科学協力研究や国際生物学事業計画などを通じ、生物的防除の研究発

展と国際間の交流について、超人的な活躍を続けられた。また昭和 43 年には国際昆虫学会議常置委員会委員に任命され、学識の広さと温厚誠実なお人柄によって多くの尊敬を集められるとともに、国際昆虫学会議を日本に誘致した推進力の中心人物の 1 人として活躍されたのである。

昭和 46 年に九州大学を停年ご退官後も第一線の研究者として国際的に活躍され、国際連合食糧農業機関コンサルタント或いは国際協力事業団派遣の専門家として、タイ国(前後 2 回 6 年)、大韓民国(3 ヶ月)、マレーシア(3 ヶ月)などに滞在され、各国の斯学の発展と国際交流につとめられた。タイ国のカセツァート大学は昭和 51 年には先生に名誉理学博士の称号を贈ってその功績をたたえている。晩年の先生には、外国の昆虫学者から、東洋の Mr. Entomologist 及び Mr. Biological Control の愛称がたてまつられた。またバンコックご滞在中の先生ご夫妻は「民間大使」という評判が高かった。バンコックを訪れて先生ご夫妻の親身も及ばぬお世話をうけた我が国の各界の学者・研究者は数えきれない。

先生は福岡虫の会の創立者の 1 人で、学術雑誌「むし」の創刊者としても著名である。「雑誌の編集発行は先生の趣味であった」といえば先生は苦笑されるに違いないが、「むし」は先生にはじまり先生に終わった学術誌で、先生の一生の大事業の一つである。終ってみたら大事業になっていたものであって、先生はいつも楽しく編集と校正に従事しておられたのである。また先生は Pacific Insects や Oriental Insects の編集にもたずさわられた。先生はまた機智にとみ、洒脱な紳士であられた。その性格は先生のスピーチや文章によくあらわれている。

先生は平生極めてご壮健で、病気らしい病気をされたことはなかったのであるが、一昨年の秋に健康を害され、入退院をくりかえしておられたが、閉塞性黄疸のため遂に不帰の客となられた。まことに痛恨の極みである。ここに謹んで哀悼の意を表し、先生のご冥福をお祈りする次第である。

先生の密葬は 1 月 27 日大野城市大城のご自宅で、告別式は 2 月 5 日九州大学農学部で農学科葬をもってとり行われた。先生のご逝去に際し国の内外から心のこもった多数の弔意が寄せられ、またハワイ大学の NISHIDA 教授がわざわざ葬儀に参列されたのも先生のお人柄を偲ばせるものであった。またバンコックでは 2 月 15 日、タイ国農務省の昆虫学者を中心に 100 余名の方々が参集して先生の法要を営まれた由である。

先生のご戒名は究竟院学誉随応教範居士と申し上げる。

(平嶋義宏)

年 譜

- 1908 (明治 41) 年 3 月 1 日 東京都に生る
- 1930 (昭和 5) 年 3 月 31 日 福岡高等学校 (旧制) 卒業
- 1933 (昭和 8) 年 3 月 31 日 九州帝国大学農学部農学科卒業
- 1939 (昭和 14) 年 10 月 31 日 九州帝国大学農学部助手
- 1942 (昭和 17) 年 1 月 27 日 九州帝国大学農学部助教授
- 1945 (昭和 20) 年 5 月 16 日 農学博士 (九州大学)
- 1953 (昭和 28) 年 4 月 4 日 日本農学賞 (ルビーアカヤドリコバチに関する研究)
- 1956 (昭和 31) 年 2 月 18 日 文部省在外研究員としてアメリカ合衆国に出張 (1 年間)
- 1958 (昭和 33) 年 5 月 1 日 九州大学教授 (農学部)
- 1959 (昭和 34) 年 1 月 19 日 朝日文化賞 (天敵利用による害虫防除の研究)
- 1961 (昭和 36) 年 1 月 1 日 日本昆虫学会長 (4 期 8 年間)
- 1967 (昭和 42) 年 9 月 10 日 文部省学術審議会委員 (2 期 4 年間)
- 1968 (昭和 43) 年 3 月 31 日 国際昆虫学会議常置委員会委員 (1980 年まで)

- 1971 (昭和 46) 年 3 月 31 日 九州大学を停年により退職
1971 (昭和 46) 年 4 月 20 日 九州大学名誉教授
1971 (昭和 46) 年 11 月 8 日 ハワイ昆虫学会名誉会員
1971 (昭和 46) 年 11 月 13 日 紫綬褒章
1971 (昭和 46) 年 12 月 ハリー・スコット・スミス記念賞 (カリフォルニア大学)
1972 (昭和 47) 年 10 月 11 日 国際連合食糧農業機関農業官 (タイ国駐在)
1976 (昭和 51) 年 7 月 5 日 カセツァート大学 (タイ国) 名誉理学博士
1978 (昭和 53) 年 4 月 29 日 勲三等旭日中綬章
1980 (昭和 55) 年 1 月 1 日 日本昆虫学会名誉会員
1980 (昭和 55) 年 8 月 9 日 国際昆虫学会議 (常置委員会) 名誉会員
1982 (昭和 57) 年 2 月 6 日 日本応用動物昆虫学会名誉会員
1983 (昭和 58) 年 1 月 25 日 逝去, 享年 74 才
1983 (昭和 58) 年 1 月 25 日 正四位に追陞せらる